

# 公益社団法人信和会 2020年度事業活動報告(抜粋)

2021年5月18日 法人常務理事会  
2021年5月19日 法人決算監査  
2021年5月25日 法人理事会

## 【1】事業活動報告

### (1) 事業活動の概況

2019年度は、全体スローガンを「学ぶ・共有する→発信する・連携する・協働することの力で、法人事業とまちづくりを進め、くらしと平和と憲法を守る好循環を作り出そう!」とし、質の目標・事業の目標・組織強化と理念的活動の目標の3つの大きな柱を設定し、具体化するための部署、分野を明確に取り組みました。

2020年度は、全体スローガンを「学び、対話し、踏み出そう。安心・安全のまちづくりと憲法9条・25条の活かされる社会への新しい一歩を」とし、質の目標・事業の目標・組織強化と理念的活動の目標の3つの柱と推進母体を新たに決定しました。公益事業として認定されているあすかい病院や茶山のさとはもとより、公益社団法人としてのガバナンスを遵守し、無料低額診療事業や社会貢献活動など公益的活動をより重視して取り組みました。

### 2020年度法人目標

(ア) 質の目標: 共有しよう一人と地域と法人の歴史と背景、発見しよう一抱える課題と希望のよりどころ。

- ①全日本民医連総会決定を学び、信和会65周年まつりを成功させる。
- ②信和会SDH・HPH取り組みを集約し発信する事例集第一集を年度末までに完成させ、そのお披露目の場として地域的なシンポジウムを開催する。
- ③すべての事業所・部署が、地震・火災・豪雨水害・強風の各災害についての明確な基準と行動計画を確立し、常勤職員がいずれかの訓練へ参加した経験を持つようになる。過去2年間の参加経験を含めて2020年度の到達目標をエリア・事業所ごとに職員比率で設定し、法人外部を含む合同訓練を計画ないし協議する。

(イ) 事業の目標: 中長期事業計画を確立し、2025年対応型、さらに2040年志向の事業形態への強化を図る。

- ①懸案事業課題につき、確実にやり遂げる
  1. 東山診療所リニューアル、着工する。
  2. あすかい病院エリア看護小規模多機能居宅介護施設補助金申請する。
- ②法人中長期事業計画を確立する。
- ③健診・二次健診、新規患者・新規利用者確保 2019年度実績見込み超。特に自然減のある分野では、過去の年間減少分を想定して目標設定する。
- ④法人協同基金(無利子)新規確保2000万円、新規建設目的債確保1億5千万円。

(ウ) 組織強化・理念的活動の目標: 学び・聴き・語り・考え・踏み出す。ひとが活きる・人が育つ職場と仕組みづくりを進める。

- ①共同組織と合同の地域行動や企画・または医療懇談会への、年間通じた目標を設定して職員の参加経験を進める。
- ②全職種に亘り、受け入れ・育成・役責や管理職登用などを系統的に支援できる政策確立を図る。

法人目標を踏まえた予算の柱は、2020年度法人目標を確認した上で、2019年度決算見通しと資金予測を前提に、資金計画と利益計算上でポイントとなる①減価償却費②退職給与引き当て③年間投資予算④協力金返済⑤銀行返済などの要素を反映させ、安定的に運用ができる期末での現預金残高を試算しました。現預金残高には上記費用とあわせて、東山診療所・病院エリア看護多機能建設費用・協力金返済に関連する銀行返済なども加味して、必要最低利益145,000千円・年間投資75,000千円(通常投資650,000千円+中長期10,000千円)を確認しました。

社会保障・税一体改革により格差や貧困の拡大し受診抑制が進む中で、コロナ禍による国民的困難に見舞われています。こうした国民の更なる困窮を避けるためにも、コロナ禍でいのちを脅かしている「新自由主義政策」から「いのちと人間の尊厳を第一とする社会」が必要です。

経営と地域の健康・いのちを守る無差別平等の地域包括ケア実現のため、事業所と共同組織、地域のみなさんが共

同して要求実現のたたかいと運動を一緒にすすめることがもとめられています。

(2) 事業計画・目標の実践と到達

大きな柱	小項目	年度到達と評価
(ア) 質の目標	全日本民医連総会決定を学び、信和会 65 周年まつりを成功させる。	<p>[あすかい 病院エリア] 全役員・管理者が運動方針読了を目指したが、読了率は 84%であった。今年度は感染対策として、県連の講師養成講座の開催がなく、院内でも集合研修ができなかったため、自己学習形式とした。京都民医連や全日本民医連の学習 DVD 視聴のあと、感想文の提出で確認を行った。自己学習を促す他に、集合研修として視聴会を開催した。感想文提出率は 67%であった。新入職員は綱領ブックレットを読み、感想レポートを全員が提出できた。県連の学習月間は終了したが、総会方針に準じて、法人教育研修の企画・実践をしており、今後も学ぶ機会作りをしている。</p> <p>[川端診療所エリア] 各部署で DVD 視聴を中心とした学習会を行い終了した。</p> <p>[東山診療所エリア] DVD 視聴を行った職場では方針への理解が見られる。今後、日常医療・介護での実践が重要。</p> <p>[洛北診療所] 月間中の学習会に留まっている。具体的な学習提案ができていない。</p> <p>[大宅診療所エリア] 読了・DVD 視聴に留まり学ぶ所まで至らなかった。全日本民医連の方針を常に意識し我々の日常活動に置き換え学びを深め職員育成に繋げる。</p> <p>[茶山のさと] 総会決定の学習以降は、とくに取り組みもできず、ほぼ進捗はなかった。総会方針の学びという大きな課題から、より具体的な目標を立てるようなプロセスが必要だったかもしれない。</p>
	信和会SDH・HP H取り組みを集約し発信する事例集第一集を年度末までに完成させ、そのお披露目の場として地域的なシンポジウムを開催する。	<p>[あすかい 病院エリア] 全職場からエントリーを提起、8 職場がエントリー、事例をまとめた。</p> <p>[川端診療所エリア] 透析・南包括より演題が出され、これで当初目標の 2 演題の提出が完了した。</p> <p>[東山診療所エリア] 各部会、朝礼・昼礼・終礼等で気になる患者、利用者の情報共有を行っている。無料低額診療事業の情報発信から相談業務へ繋がるケースが増えている。外来部門で無料低額診療事業へのアンテナが高くなっており、受診を途切れさせない取り組みとなっている。</p> <p>[洛北診療所] 法人医療部集約の事例集に 1 事例エントリーを行った。看護師が主体となり、まとめていくことになるが、事業所全体で共有し事務職も関わりを持ちながら進めていきたい。</p> <p>[大宅診療所エリア] この間全ての部署で困難事例があった、関連部署内での報告に留まっている。全部署で責任を持ち回りし、年間計画を立て事例報告会を実施し全職員が改めて民医連事業所としての役割を再認識出来るよう目標を持って取り組む。</p> <p>[茶山のさと] 中堅研修の取り組みを発表する等、少しずつ取り組みを広げているし、そのことが SDH の視点の定着にもつながると評価している。</p> <p>次年度も事例にこだわることを法人目標にもあることから、引き続きの事例検討の取り組みと、SDH の学びとを組み合わせたい。また、そういった事例の発信についても引き続きの課題としたい。コロナ禍、制度改悪下でこそ、SDH の視点と感度を高め、相談活動や関係づくりを意識した取り組みを進めることを、2021 年度目標にも位置づけた。</p>
	すべての事業所・部署が、地震・火災・豪雨水害・強風	<p>[あすかい 病院エリア] 新型コロナウイルス感染症の拡大の中、進捗なし。BCP の作成を次年度課題とした。</p> <p>[川端診療所エリア]</p>

	<p>の各災害についての明確な基準と行動計画を確立し、常勤職員がいずれかの訓練へ参加した経験を持つようになる。過去2年間の参加経験を含めて2020年度の到達目標をエリア・事業所ごとに職員比率で設定し、法人外部を含む合同訓練を計画ないし協議する。</p>	<p>介護(居宅、通リハ、包括)は、届出上、BCPが必要となっているので、一定前進している。介護以外では進んでいない。2021年度はBCPを、部門ではなく診療所エリア一体として確立する。</p> <p>[東山診療所エリア] 具体的な計画は検討中。エリア役責会議で計画の具体化を行う。</p> <p>[洛北診療所] 防災学習は1月に予定していたが順延した。診療所の災害マニュアルがないため、作成が急がれる。2021年度の法人目標に沿った診療所対応の防災行動計画と防災訓練年1回以上開催する。</p> <p>[大宅診療所エリア] 職員の陽性者は出なかった。通所系・訪問系の部署で可能な限りの対策が取られた。今期の経験と苦労をバネに部署単位でBCPを作成する。</p> <p>[茶山のさと] コロナ禍もあり、計画通りの訓練実施が難しかった。施設に求められる「訓練」が増えており、次年度はBCPの訓練、地域との連携なども介護報酬上求められることとなる。年度計画に十分位置づけて取り組むことが必要。BCPの作成は運営基準上も求められており、整備を急ぐ。さらに地域との連携も必要とされており、地域に踏み出すことも2021年度目標に盛り込んでいる。</p>
<p>(イ) 事業の目標</p>	<p>2. あすかひ病院エリア看護小規模多機能居宅介護施設補助金申請する</p>	<p>[あすかひ病院エリア] 6/25開催の常務会において、プロジェクト会議からの到達報告を受けて、以下の四点から看多機建設の保留を確認した。①看多機事業として利益確保が困難。シミュレーションでは利益確保には非現実的な利用者確保が必要。さらに負担金もあり対象となる利用者層が少ない。②あすかひ病院入院患者の退院調整と在宅療養の円滑化の役割が変化してきた。病院における退院調整機能の向上とベッドコントロールにより長期入院患者が激減しており、看多機の必要性が薄れている。③建設費用が2億円という事業規模から見ても高額な投資で、さらに解体費用やたんぼぼこでまりの退避場所確保などの費用が発生し、その事業に相応しくない高額な投資となる。④コロナ禍の状況で、行政の多額の財政出動、税収の落ち込みで今後も補助金が付くか不確実。7/21法人常務理事会へ報告。高原デイサービスの今後の展開を検討する。</p>
	<p>健診・二次健診、新規患者・新規利用者確保2019年度実績見込み超。特に自然減のある分野では、過去の年間減少分を想定して目標設定する。</p>	<p>[あすかひ病院エリア] 新型コロナウイルス感染症の拡大で、新患が激減、2019年度実績を根拠にすることが現実的でない。患者動態の精査、外来診療のあり方の検討。外来分析PJ会議を開催していく。</p> <p>[川端診療所エリア] 現状維持にどこまで近づけるかという目標設定に変更。健診なども丁寧に対応してきた。透析や通リハの感染対策と同時並行での取り組みだったので、感染拡大しなかっただけでも評価できる。すべてをコロナの責任にせず、ポストコロナに向け目標設定、行動目標の設定が必要。</p> <p>[東山診療所エリア] コロナ対策を意識しながら友の会健診、事業所健診を取り組んだが、例年と比べると大きく件数を減らす結果となった。外来予約状況に合わせて、密にならないような対策を取りながら健診予約と実施を心がける。密を回避しながらの年度末事業所健診の調整。二次健診の把握。</p> <p>[洛北診療所] 一般患者との接触を避けるため、朝8:45-9:15に3名枠で健診を実施している。感染防止の観点から集団健診は開催していない。1日3名枠で年度末の3か月間友の会健診を位置付けた。集団健診を開催しなかった分、日々の診療に拡散させていったが、年間健診目標数には到達しなかった。</p> <p>[大宅診療所エリア] 3月外来件数1099件、昨年同月比△96.1%在宅94件&lt;訪問回数は213回と今期最高数。健診は375件と過去最高数を出した。通所は45件/391回と低迷。虹は96件、ひまわりは78件訪問回数476回と今期最高数で今期を終えた。保険予防最終版の伸びは驚異的で前年度比較99.5%たった△13件で留まったのは驚異的である。ひまわりも最後の月大きく数を伸ばし第④四半期を終えた。今期最高数は、虹の予算達成も見えた。コロナ過での大宅エリアの到達の要因は全職員奮闘に他ならない。</p> <p>[茶山のさと]</p>

		<p>第4四半期の経営状況はかなり落ち込んだ。予算到達の見込みはなく、利益目標との乖離幅は大きい。入所系の空床対策は行っているものの、突発的な入院による退所の際の空きベッド対策までは追い付いていない状況。再入所を待ち空けておくベッドは入院数に従って増えるため、12月以降はかなり厳しい状況が続いていた。また、通所リハの苦戦も経営的には厳しい。こちらも入院・入所による利用者数減が大きい。介護報酬改定への対応、介護医療院への転換、これらの課題をクリアしながら、安定的な経営をめざす。これまでの介護の実践がさらに前進・発展できることを目指し、全職員で取り組むことを2021年度目標に反映した。</p>
	<p>法人協同基金(無利子)新規確保2000万円、新規建設目的債確保1億5千万円。</p>	<p>[あすかい 病院エリア] 左京友の会だよりに同封。協力金 50,145千円/65000千円 77.12%、基金 17646.5千円/10,000千円 49.9%</p> <p>[川端診療所エリア] ほぼ継続であり、新規確保に十分取り組めなかった。</p> <p>[東山診療所エリア] 少しずつ職員からの協力金が集まってきているが、友の会役員や地域への広がり大きかったが、職員への広がり作りきれなかった。</p> <p>[洛北診療所] 職員へ協力金等の応募呼びかけ文書を配布した。月間の目標金額には達成しているが、引き続き協力をお願いする。</p> <p>[大宅診療所エリア] 職員への働きかけが最後まで弱かった。</p> <p>[茶山のさと] 職員向けの個別のお願い文書は一定効果があったように感じる。配布以降、数名の申し込みがあった。目標を立てて取り組むというスタイルは確立できなかった。</p>
<p>(ウ) 組織強化と理念的活動の目標</p>	<p>共同組織と合同の地域行動や企画・または医療懇談会への、年間通じた目標を設定して職員の参加経験を進める。</p>	<p>[あすかい 病院エリア] 新型コロナウイルス感染症の拡大の中、進捗なし。コロナ禍の中での研究課題。</p> <p>[川端診療所エリア] すべての取組みをとめている。ポストコロナにむけた論議を役員とともに検討する。</p> <p>[東山診療所エリア] 会員拡大32名、いつでも元気8部。エリア全体で大きな運動に結びつける必要がある。共同組織の力が不可欠。 新型コロナへの対応に手を取られることが多く、思いうような結果に結びついていない。次年度は2020年度目標の会員数世帯比率5%の達成を目指す。</p> <p>[洛北診療所] 感染拡大が広がっているため、懇談会は積極的に開催できないが、異なる形式での懇談会も模索したが、実現できなかった。感染防止から2月より役員会は外部集会場を利用して開催するなど、場所や規模を考慮して具体的課題に取り組んでいく。</p> <p>[大宅診療所エリア] アンケートに回答頂いた方への電話訪問を開始した。 又、新たな職場代表としてケアプランセンター虹が友の会代表世話人会へ参加を決定した。山科区においても高齢独居・相談相手なし等問題が浮き彫りになった。友の会患者様送迎の問題は大きな課題として残った。</p> <p>[茶山のさと] 月間の取り組みでは入会目標が達成でき、大きな成果を得たと感じている。それ以降は、コロナ禍でもあり取り組みはできていない。友の会だよりの手配りを社保まちづくり委員での分担は定着してきた。</p>

以上